

ケアネットせとうち通信

笑顔で長生きできるまち

瀬戸内市の高齢化率が31.7%になりました 医療機関以外の場所で最期を迎える方が少しずつ増えています

瀬戸内市の人口における65歳以上の高齢者が占める割合は、平成27年4月1日現在で31.7%を迎えました。平成24年、平成25年の場所別死亡率は下記のようにになっており、病院・診療所以外の場所で亡くなる方は、18.4%から26.1%に増えています。このことから、自宅や入所施設、小規模多機能ホーム等での在宅療養や看取り支援が重要になっています。

場所別死亡率（資料：岡山県人口動態統計票）

	平成24年	平成25年
病院・診療所	81.6%	73.9%
老人ホーム・老人保健施設	3.0%	7.1%
自宅	12.7%	15.6%
その他（※1）	2.7%	3.4%

※1 グループホーム、小規模多機能型居宅介護なども含まれる

在宅療養を希望される方が増えつつありますが、「どんな支援を受けることができるの?」「家族だけでは、いざという時が心配」という声もよく耳にします。地域での在宅療養への認識は十分とは言えず、不安を抱えている方もおられます。

自宅や入所施設、小規模多機能ホーム等では、医師・看護師・介護支援専門員・介護職員等の多職種が連携し、支援を必要とされている方・そのご家族を支えています。夜間のケアや緊急時の対応等に課題を感じています。「不安を抱えておられる家族に、どのように声をかければ良いか?」「夜間、急変されたらどうすれば良いか?」このような支援過程における「どうしよう?」に伝えるため、ケアネットせとうちでは在宅療養支援のしおりを作成することになりました。このしおりは、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、介護支援専門員等の多職種協働で作成する予定です。

また、市民・多職種への啓発活動として、野の花診療所（鳥取県）で在宅医療・ホスピスケアに取り組んでおられる徳永進医師を講師にお迎えし、在宅医療普及講演会を開催します。在宅医療・介護について「私たちにできること」を一緒に考えてみませんか!!

在宅医療普及講演会のご案内

日時：平成27年11月21日（土）13:30～15:00

講師：野の花診療所 院長 徳永進氏

会場：ゆめトピア長船（定員400名 ※事前申込み不要）

演題

「家で死を迎えるのも、
いいですね」

ケア・カフェせとうち から次へステップ!!



6月11日(木)第6回ケア・カフェせとうちを開催しました。医療・介護・福祉・行政など40の事業所から95名が集まり、「薬で困ったこと～みんなで考えてみませんか～」というテーマのもと話し合いました。薬の管理方法や副作用、薬について多職種でどのように連携すれば良いかなど、活発な意見交換となりました。

参加者の声



「初めての参加です」

- ・小グループ(4～5人)の意見交換で発言しやすい
- ・初めてでも緊張せず話すことができた
- ・研修会とは違う雰囲気、良かった
- ・多職種の方と関わることができ、それぞれの意見を聞いた

「何度も参加しています!!」

- ・参加するたびに顔見知りの方が増え、話しやすくなってきた
- ・知り合いが増え、仕事で会った時に親しみやすく何でも言えそうな関係になった
- ・普段、不安に思っていること困っていることについて、他の専門職と共有できた
- ・後日、他職種から要支援者のことで具体的な相談を受けた…など



参加回数について
(第6回アンケートより)

第6回参加者アンケートでは、ケア・カフェせとうちへ「2回以上参加している」は全体のうち約60%でした。

参加後の変化として、多職種と顔を合わせる機会や連絡回数が増えた**27人**、他の職種の仕事内容が理解できるようになった**38人**、多職種の仲間が増えた**12人**という結果でした。ケア・カフェせとうちでの交流が実際の支援につながったと実感されている参加者が少しずつ増えています。

また「顔の見える関係から、実際の支援へ!!」という声もあり、岡山県薬剤師会瀬戸内支部と介護支援専門員協会瀬戸内支部では、お薬手帳の活用について検討しています。

次回は10月22日(木)19時より「お互いを知る～他職種に伝えたいこと～」をテーマに、その職種に就いたきっかけや、他の職種に理解してもらいたいことなどを話し合います。それぞれの職種の役割や業務内容を理解し、多職種による支援を充実させていきましょう。

みなさんの参加をお待ちしています!!



ケア・カフェとは…ケアに携わる支援者の顔の見える関係づくりと日頃のケアの相談の場です。カフェのような雰囲気の中で、グループに分かれてテーマにそった会話をします。さらに内容を参加者全員で共有し、いろいろな意見を持ち帰ることを目的としています。



在宅医療 多職種連携 研修会

高次脳機能障害について学ぶ

【日時】8月20日(木)19:00～20:30

【テーマ】高次脳機能障害について～在宅生活支援を考える～

【講師】川崎医科大学附属病院リハビリテーションセンター
高次脳機能障害支援コーディネーター
言語聴覚士 八木 真美 氏

交通事故等の外傷や病気により脳に損傷を受けると、様々な後遺症が残ることがあります。例えば新しいことが覚えられない、意欲が低下した、周囲と上手くコミュニケーションがとれないなど。これらは、高次脳機能障害の症状です。現在、高次脳機能障害に対する医療・介護福祉等の支援体制は十分とは言えない状況で、障害に対する知識や理解を深め、実際の支援について考えることが大切です。

8月20日(木)高次脳機能障害に対するリハビリテーションや相談支援に取り組んでおられる川崎医科大学附属病院リハビリテーションセンター八木言語聴覚士をお迎えし、高次脳機能障害に関する在宅生活の支援について学びました。93名の参加があり「**周囲の環境によって症状が改善することがわかった**」「**ちょっとした工夫が、スムーズなコミュニケーションにつながる**」等の感想がありました。

高次脳機能障害は外見からは分かりづらく、周りの理解も得られ難いことがあります。地域での支援がより深まるよう今回の研修を活かしていきましょう。



<川崎医科大学附属病院 八木言語聴覚士>

緩和ケアについて学ぶ

【日時】9月24日(木)19:00～20:30

【テーマ】緩和ケア～高齢期に多い呼吸器疾患の療養支援～

(共催：邑久医師会)

【講師】岡山県健康づくり財団附属病院
病院長 西井 研治 氏



肺炎、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、結核など高齢期に発症しやすい呼吸器疾患は多く、予防法や治療について学ぶことが大切です。9月24日(木)呼吸器疾患の療養支援について岡山県健康づくり財団附属病院より西井病院長をお迎えし、研修会を行いました。



<岡山県健康づくり財団附属病院 西井病院長>

「高齢者に多い呼吸器疾患と対策」と題し、高齢期の肺炎の注意点や結核の感染対策等に関する情報提供、長期間の喫煙により最近増加傾向にある慢性閉塞性肺疾患(COPD)についても診断や治療法について学びを深めることができました。

医師・看護師・介護支援専門員等73名の方が参加され「**呼吸器疾患や対策について再認識することができ、感染防止のポイントや職員の健康管理に対する意識が高まった**」「**高齢者と接する機会が多いので、結核等の予防・自己管理も大切であると感じた**」等の感想

がありました。

呼吸器疾患の重症化や感染を予防するために、「症状を見逃さない・早期受診を勧める」等、日々の支援の中で心がけていきましょう。



多職種研修会とケア・カフェのご案内

～みんなで 学び・考えてみませんか～

医療者・介護者・福祉者のための 第7回 ケア・カフェせとうち

【日 時】 10月22日(木)
19:00～20:30

【テーマ】 お互いを知る
～他職種に伝えたいこと～

【会 場】 瀬戸内市総合福祉センター
2階大会議室



普段 感じていること・思っていること
気軽に話してみませんか!!

介護保険制度

【日 時】 11月19日(木)
19:00～20:30

【テーマ】 介護保険制度の最新情報

【講 師】 NPO 法人
岡山県介護支援専門員協会
会長 堀部 徹 氏

【会 場】 瀬戸内市総合福祉センター
2階大会議室

地域包括ケアシステム全体研修会

～みんなでつくろう!笑顔で長生きできる まち～

【日 時】 12月3日(木) 19:00～20:55

【基調講演】 がん治療と緩和医療について
～がん診療連携拠点病院と在宅医療連携を通じて～
岡山赤十字病院緩和ケア科 副部長 渡辺 啓太郎 氏

【実践発表】 がんとともに生きる ～家族・支援者の立場から～

【会 場】 ゆめトピア長船 夢いっぱいホール



各研修会のお申し込みについては 別途ご案内いたします
みなさんのご参加を お待ちしています

<ケアネットせとうち事務局>

瀬戸内市保健福祉部 トータルサポートセンター準備室
〒701-4246 岡山県瀬戸内市邑久町山田庄 862-1 (瀬戸内市総合福祉センター内)
電話：0869-22-3800 FAX：0869-22-3801

